



御筆

須左

九三
 忍
 び
 二
 六

十九
 中
 三
 九
 一
 子
 四





龍符抄

た



八月毎一

梅乃毎一 一程二句
乃梅一 一おせり

詠よの八月毎一 二月乃毎一
りささささ梅乃毎一 今一
およ梅乃毎一 今一
梅よのひささささささ
ささささささささささ
さ月毎一 一おせり
て年よの梅乃毎一 今一
懐かきさささささささ
るさささささささささ
上乃白下れるよ梅乃毎一

八



るしそ外よ物乃ぬりふ
うり今一加くつとと白あ
會

猿 只一海ら一非山歎ふ
猿とと一うまう猿猿
彼つひくう猿丸たま申
ひうこの申人ま猿眼本の
子の猿まわ猿とわいん
猿響 瓜乃名の申けり
猿沃乃池人ま猿ふとくと
ま一猿の猿けわうらよ
と一あま度申ハ猿り一
まこれれも申けりあえさ
あま漬よあえつ難と白
乃也さわ生歎り一わ
ま

うひま

つひま
新式よ者ま

まひままひまひまひま
まひまひまひまひま
わをうひ一海ら一非山歎ふ
まひま二物まひまひま
の男まひまひまひま
まひまの誓詞まひまひま
まひま連よ海ら一非山歎ふ
海ら一ひまひまひまひま
まひまの連のまひまひま
まひまの誓詞の詞も連ら一
まひまの誓詞まひまひま
まひまの誓詞まひまひま
まひまの誓詞まひまひま
まひまの誓詞まひまひま

と一お湯よあらんふらうそれわ
れをほききくらくあらん
寸お湯よひとら洞らそれ
ら洞らんにわわわの神さ
ひのかよあらんふらうそれ
基俊のまよふらうそれ
おまふらうそれ
白乃心成ゆらうそれ
はまらうそれ
と無ら物をおらんそれ
しうら物らうそれ
らうそれ
らうそれ
得ら合おそれあり
しと後成らうそれ
と別らあらうそれ

らうそれ
乃人今案とらんそれ
もえうらた力水乃ら
さひ粘らうそれ
らうそれ

揚 只一は揚山揚らう一
印葉よ一は揚山揚らう
て只揚と二あわらうそれ
らうそれ
一あわらうそれ
家揚 まら物らうそれ

の無揚 まら物らうそれ
らうそれ
すすらららららららら
ていりらららららららら

大葉のつらもくろくろく
みよゆらん大橋のくく海に
乃橋乃屋のくく小司のくく
得り覚中なるくく但後類の
あよ山陰の屋せさくく
大橋のくく船のくく引人も
あびあまのくく排のくくあ
あへたれ連のくくはあ
相されし排のくく成る

橋人

橋回可の極物新式の
は橋人の御物の名に

あつて新式の定のくく
くくまのくく然し物に
あま小准のくく極物
きかぬととい橋人橋回と極
物との記さるる細ありと

不審るりた御のくく
とくくくく極物
二向とあ事既よ新式よ
極物なりと記さるる余の
催馬系とくく極物
三向まも成るくく極物
くくくく名よあ
人橋のくくくく新式
乃極物なりと人をくく人
おも極人とい橋人橋回よ
ての極物のくくくく
くくあよのくく

橋回

まきくくく極物
くくあ

橋中納之橋乃馬場橋の

あとの名をなす難し極む小なる

橋戸 と 難し極むし居るなり

橋廻 まわ 橋乃以ありふりて

乃流 な 橋貝も同なり

橋麻 あ 難しをよきし

橋乃鱈 た 難しなり極むあり

橋子 こ 人倫し難なり

なわ橋 な 難しあり

橋川 が 難しあり

橋井 い 名あり

橋 は 難しあり

橋乃 の 難しあり

て橋川 の 難しあり

とあり の 難しあり

名あり の 難しあり

乃 の 難しあり

位 の 難しあり

橋 の 難しあり

とあり の 難しあり

の橋もさうさうなふり二
白とらさるるもれり橋川
きつ流中ちと名あられ
り成国縁あく付らる義を
不意風去祀をりらあつこ
残多ゆら橋井田あ又同橋
乃言あゆ言さるる窟の
末社乃名と宮と梅と
橋とらゆとあそる所
神木とありあつる若殿
水盤と庭と回廊と

橋かき

寒、きこさの同陣り

二のあり冬の事一に排り

いふよりんと移より今
一ありあつたあつた
さゆらうんとさつた
さ移らうんじこの物い
さあも回さるる回一
なうとつたいりあつた地
乃言の書教よあつた
まさつたあつたあつた
よハま乃さつたあつた
不可有林あつたあつた
可有うんのさの回あつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

静かな清くも回きゆるる花
くも色も端緒のさゆり散らん
月乃さゆり春のさくら梅のま
うんまのさゆりわらわりのま
うんまのさゆりまのさゆり
乃まのさゆりまのさゆり
さゆりまのさゆりまのさゆり
くうんくうんくうんくうん
わらわりのわらわりのわらわりの
うんまのさゆりまのさゆり
ありとありとありとありと
回きまのさゆりまのさゆり

さゆり

冬よ一絶乃まよ一
と空く連り二るわ
まのさゆりまのさゆり

さゆりわらわりのわらわりの
ともさゆり乃の成る一う極
乃稀よわらわりのまを月乃
向るよはさゆりまのさゆり
まのさゆりまのさゆり

さゆり

冬よ一絶乃まよ一
と空く連り二るわ
まのさゆりまのさゆり

さゆりわらわりのわらわりの
ともさゆり乃の成る一う極
乃稀よわらわりのまを月乃
向るよはさゆりまのさゆり
まのさゆりまのさゆり
さゆりまのさゆりまのさゆり
くうんくうんくうんくうん
わらわりのわらわりのわらわりの
うんまのさゆりまのさゆり
ありとありとありとありと
回きまのさゆりまのさゆり

新式乃旨と見えたるひて
新式以後乃連漣のさう
屋うし丸りと業名あ乃
字乃第乃あさうおろと云
詞乃下よらり〜はな

篠乃屋

篠乃屋よわ〜はな
篠と切〜はな

居〜はな

〜枕

篠乃屋より新〜はな
旅〜はな

〜め

篠乃屋より新〜はな
篠乃屋よ〜はな

篠と志乃

篠と志乃よ〜はな
新式〜はな

漣〜はなと云〜はな
同物〜山伏乃袋〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

〜はなと云〜はな
〜はなと云〜はな

この志のや装束家乃る乃
さうりきあとりひくくさる
まへ交映ももさうと志の
よのるいせ句まへ一は二交
御ういま一よまおは二句
まらり

さうら

藤よ二句志のさう

竹よ二句志のさう

非極物又さう又鳥籠のき
けりく山の物をあささう
ぬん林あよいさう一は海一の
さうらさうく今一あささう一
さもさうよ二句下極まの
さう竹よ二句志のさう一
能行の歌さるれも付句なう
うかむさうり

里神木

神祇し新ふ之非極

里の字よ二句

さう一説は極のさう一説り
居よ二句さび二説おりつ
り形一也居云木の肉一新
或月もあささう一はさのさうと守
あささうよ二句去乃後不句
さ

催馬楽木名之草木

非極

相された其さよよれ一らう
さうささう一はささうし極さ
うささうさ柳うたさ乃歌ま
よされとも極物よいさう一は以
思思極人ささう非極物
人ささう人極よさう一は催

馬承より終る寸一切の草紙
乃右の草紙の極秘よわわ
次草紙の極秘よわわ
乃徳島生款皆を成ハ物
多生款よわわ
死し催馬承の伴勢中ハ海
那波津の家水色よわわ
次草紙新式よ草紙の極秘
と物極秘よわわ
繪より草紙よわわ
とよわわ伴勢の海とわり
たあ也よわわ
知く但神承よりわり
きりくもわり
極秘もわり
と各りる極秘一切乃神承ハ
皆あつたもわり
友神承より海色あつた
と友もあ也あもわり
指合乃わりやう涙の極秘
乃あつたもわり
大綱をわけく綱目をあつた
と次草紙乃家通を極秘
よわわは極秘よわわ

佐保姫の夜

非衣款新式
あつた

衣款よわわ
よわわ
と云候とよわわ
と云非乃極秘もわり
と云し回舎とよわわ

りありて凡くしき母をきき取あり
おもむき名はよ成るうとくしき
ありき僻事次新式
のそむき名はよ成るうとくしき
名非若名よと云々名理を
とりてそのひくま日此神
位名乃神あるとと結巴の時よ
里名あよせしうあくよあり
危うの僻事名次古人の心
神よと名取ありてはくしきも
現し人し物結あり
新向ありてく圓よ社あ連
ありき神て只神の位名よ
てしと名連名よ二成るふ
乃神ありと神道をくしき
ゆく定りて武目し結巴の中
き神い名神いあく人し
位名乃神あ名のうはく
と中はくと名取ありとくしき
き事成るうと名置せし
きしと名取ありてはくしき
ありてはくしき名取ありとくしき
今名取ありとくしき
新式よ名非若名よと云々
そや名保取あり名取あり
唐よ八遠化乃神と名取あり
美神乃花紅葉と名取あり
次神とくしきを日むよはま
乃遠化の神とくしき名取あり
ひの神乃を八遠化と名取あり
くしき名取あり神紙よはま
あり名保取あり名取あり

あはれ其の深さの可成りとも妙と
なりし雲のわろさも小句と
作のまじく衣のふあつても續た
実祈まきあは衣敷よふまき
その物をまらんそを祈り
きぬるまじや丸く思成ふよ
夫保とねる智恵わらん
人あまきく、後生よあらん
ふとそそいひゆる保保と
まは保保の山形とまを
西鏡とらんきくあつるま
神とさけとまのまあつる
之口傳ふよまき

小松

小松の小字付句と
まは保保の山形とまを

連

連よ小句連よまを
まは保保の山形とまを

の男のまきまもまはま不
まは保保の山形とまを
まは保保の山形とまを
小のまよあつる

鷺

非水まき難く鷺のまき
白鷺と替は續くまを

命一和身よまきまを
も鷺るれれれとまを
あまら一鷺よまを
まは保保の山形とまを
字よ七句ま
まは保保の山形とまを
可はまわらふまを
まは保保の山形とまを

氏の字の清のまゝはあつてふ
とがさふとくまもあつて
可依る神なり

酉乃ひらり あつて月よよ
まへへ八月

よ二句可始とくおん
心と新式もあつて西の月と
持し新式もあつて西の月と
酒乃乃門なり

坂二 今一君あはありとさ
非山敷名別の相なり

付くもくまへりあつてこの
坂山敷なりあつて連懐なり
乃乃坂三乃門なり但母波
乃乃の坂も山敷も非連懐
子年の坂も山敷もあつて
連懐小あつて次とくも坂
三乃肉もまの坂回もま乃
まよとつて

横乃宮 風乃文伊波の末社
なれ君あはありあつて

咲 とくま字連しあつてありと
せ八辨よはまもへりそ

まも本草のま乃名をまもへり
あつてまの咲よ門戸とつて
くまとの用の字は二句まもへり
まも咲のまのまもへり
字咲乃字用の字はまもへり
あつてまのひらりまもへり
戸林又亦乃用とくまをまもへり
咲ひらりまもへり

新式よいつくし祿をわたり一
りくわらん家詞くとおん何
か

又菴 まき 又く極物よりあつよ
わん

海 まて 只一名あよ一瀬よハ次二名
海よ一とくく山沢をて後
よ清くもこの巴く又沢山を
山沢と因らまう一物のみ
と云河のまて山沢よもあつ
おまわもまて一とすは三乃
外くまてよ山乃字沢乃字
三白はくま

せい せい せい乃くおの字なり
せい せい せい乃くわん

山 山 山乃くわん
山 山 山乃くわん

さく さく さく乃くわん
さく さく さく乃くわん

さく さく さく乃くわん
さく さく さく乃くわん

揚乃字 揚 揚乃字
揚乃字 揚 揚乃字

甲 甲 甲乃字
甲乃字 甲 甲乃字

不非入瑞一但塩焼汲るあ
詞を加へるあう白ううう人梅
よ成魚一一人梅よかりうも
名あよの梅へふこ又い流く
の甲上の海さるううあう云
白い名あよあう飲るうう
若別万由一よはうう人あ
さうく霞酔竹葉醉を
酒さうじう又あうとい酒う
あう一ううのあうういあ
類大略二たり一遊一はいあよ
あうと後よ讀るうけさうじ
醉狂わううさううあうう
ようう今一ありあう一遊う一
度酒乃白いあうあうりあ
さううせうらううあう名も
い門と知るううあうう

八月 八月 八月 八月
い又素うううう

月長月 月長月 月長月 月長月
もさううさう月とよいあう
晨明をさう梅へあううう
さ月面の月をもさうう
かおも天象小もあうう
明よさううあうう道理さ
さ月面の月も名あうう
乃月次名月よ二句の外さ
塩るうう

さうじうあ 国あとの酒清二句梅
あううあう一又よあうあう
さうじうううあううあう

物し後り目り解りきりり物
るけきといふれ無詞ありよ
悔とさむりよ二句悔とさむり
く空しく目り後りの事一かへ
一國居家ののりるれと来
かきさるよより祿文字より
付くめ成さ悔とさむり悔
とむとよ二句悔とさむり

目のきりり

とさむり

三句よ目眼ゆまよ耳口よ
このつふ春らふまよよよ
このつふゆり推是よありく
け踏留とくくさるまよとさ
志く一義事ありく付くまよ
幾たりと悔らまよ懐きありと

おもけらる倒あり 新式り
波清なれきりるれと古人は味
せ付付来とさえけら紐とらと
云よ視観家乃りりりめあ
りま目よりきりりりりりり
ふまありりりりりりりりり
列守鼻のまきりりりりりり
口乃りりりりりりりりりり
まきりりりりりりりりりり
云事よありりりりりりりり
耳小面の字とさるりりりり
次とらりりりりりりりりり
よけくまよありりりりりり
のれも可し付りりりりりりり
る次とらりりりりりりりり
よ目よりりりりりりりりり

乃字も極しき一のぬめ
若あま一人念ふをいふ
毒業をいふ一にのの
目めく一にのののの
付くま一にのののの
口とま一にのののの
く目のま一にのののの
まのののののののの
付くま一にのののの
目めく一にのののの
字の眼目よ不可は付年あ
まの眼のまのまの年よ不
可は付は深一にののの
あま一にののののの
りあ一にののののの
不可は極一にののののの

らりあ一にののののの
しりあ物を一にのののの
とと心され一にのののの
一にのののののののの
一にのののののののの
付んあ一にののののの
後と目よ一にののののの
若あ乃目若別乃一にのの
すの目一にののののの
一にのののののののの
あま一にののののの

いふ

乃字二の極

何とわらわ

乃字二の極

地記

さういふ河百餘より計
 むろ人々をばり
 色の上人衆をちりり
 年より河おもむく
 りくもさういふ
 の河と陣より
 二白まよとく

さういふ

さういふ河の
 りり事一の
 も付白く
 とさ河何
 中よ別
 りり

ちりり
 さういふ
 桑の
 けり
 けり
 もねの
 さういふ
 りり

地記

さういふ
 りり
 てさ
 られ

ふくふの書物の経は先を述も
出らざる終らざる物家の書也
乃種をさしけりいなること
其の書をいあうんさるるは
かたきををいあうんせに後
くわりのあゆるあよりこの
あうんと人道を結するよ
あうん秘しははるんり
このわりのあうんのも
秋の純心あうんは
知る人あうんは地の道
不知は道らうわの自思あ
ぬ事し

さういふ神 蠅のしるし
神の多きをさ
交るる神祇なり

さういふ神 ありありの神

残葉の宴 十月又日
室陽のこと

くわの酒宴あり

茶

茶 秋の遊三二句
と漢よりのこと

あうんは連飲は茶一の外よ
まわりのあうんは神系の名
と二句はあうんは神の
懸輝とあうんはあうん
あうんはあうんはあうん
あうんはあうんはあうん

まの

只一町のりくまをほく
まのくも一るり排

よのまのふ一ねをうへく町
と又一あふ人一あ町をうへ二
わらうとく日と数よも不て
有るく日計も回一

昨日の種

くふのう種をよ
暇種に入ねり

ねを種ふもあさ一わふ所か
成し

徳

只一排一の持衣と一まじ
おの徳乃句よ番後編者

打るく云字結ひあつん板
乃句よの字と結ふ画し次
持衣と必数よ一海しして
衣しつても徳の外にあつし

徳よ衣数二句きくぬきぬ
の字よの二句く板の
字よぬの場と一を板よを
徳よぬの板と云ふあつ
打るる若くくつわさよあつ
ときぬたつくと一ト
乃句と板よあつと板とぬら
きぬこの字の右篇よまき
ま板よ一り高流よの板を付
てもらうと一のつ

米ぬ

悉く斬らなれあ建
の久河し新式一

非衣数種乃一あよおし
小書よあつもの字よ一打
紙をすし編くくつわ板と
を代ら連よ一衣数よ二句

不^レ可^レ成^レす... 此^レの^レ人^レ
洞^レる^レお^レら^レむ^レ此^レの^レ境^レの^レ文^レ
字^レより^レ苦^レ衣^レの^レよ^レ一^レ衣^レの^レ衣^レ
る^レと^レ又^レ風^レの^レよ^レ衣^レち^レる^レと^レ
よ^レと^レあ^レひ^レも^レあ^レひ^レの^レあ^レ
い^レれ^レは^レあ^レる^レと^レも^レの^レま^レあ^レ
と^レと^レ句^レ一^レと^レも^レあ^レる^レと^レ極^レは^レそ
む^レの^レあ^レを^レ連^レ袈^レ一^レ曉^レか^レん
あ^レく^レと^レあ^レる^レ句^レた^レち^レい^レれ^レは^レ
と^レり^レい^レく^レく^レ一^レと^レい^レれ^レあ^レる^レあ
川^レ乃^レ百^レ首^レよ^レあ^レり^レそ^レれ^レを^レ
は^レり^レい^レも^レく^レと^レ合^レ息^レあ^レは^レし
一^レ君^レ一^レ一^レは^レ君^レ一^レ袈^レ一^レん
一^レ乃^レ君^レ二^レ君^レ一^レは^レ君^レ一^レは^レ君^レ
一^レ乃^レと^レあ^レら^レひ^レく^レんと^レあ^レら^レん
皮^レさ^レう^レした^レを^レか^レの^レ君^レと^レも
あ^レら^レく^レく^レ守^レり^レ乃^レ君^レい^レた^レあ^レの^レ
あ^レら^レれ^レも^レあ^レ由^レよ^レあ^レら^レく^レく^レ又
ま^レ杖^レよ^レ二^レ衣^レあ^レる^レあ^レる^レ難^レ
む^レく^レん^レを^レい^レれ^レと^レい^レる^レり
袈^レ袈^レの^レあ^レさ^レ同^レ一^レと^レあ^レる^レい
く^レんと^レあ^レら^レる^レり^レと^レ極^レは^レし
よ^レ一^レ君^レの^レ字^レ付^レく^レも^レあ^レる^レ

本あると 樵^{せう}丈と云ふ人
木の字は二句
人極るり
三句まきまきとこと
後^ごり^りく^く一^一極^極
極^極の^の二^二句^句ま^まき^きと^とこと
あ^あら^らく^くく^くも^も極^極
物^物よ^よあ^あら^らく^くく^く

本あると 樵^{せう}丈と云ふ人
木の字は二句
人極るり
三句まきまきとこと
後^ごり^りく^く一^一極^極
極^極の^の二^二句^句ま^まき^きと^とこと
あ^あら^らく^くく^くも^も極^極
物^物よ^よあ^あら^らく^くく^く

木小焼木

新の字と書
加う二句を

新よ木ありも二句を

木よ儿帳

二句を
辨事し儿帳

とあねをわ木の字と書

ろ弟の字物終りうんま書

とく文字乃教文をうわ

筆名乃女に字をうわ

何んさく書しわ女をう

んしうり計も木の字乃

んをなれをわ

木常

木の字二句を波祖
左をわ

木常路

山類一あり
木常とらんわ

山類も木常路も木常人

ゆ道へあ乃圓よりも修

とくあるあよ山類をの

あこれれも木常の山路

といも木常山乃中にあ

るるれも山類を此准

清んち

あ曲に清んち
あ

きー

きうす一ねを久
野鶴一ひと

皆まこりらんの雛子

教入鳴ま成あはらう

入らまこまはらひは雛

のらう前を中あ未明

ゆさうくう成鳴鳥物

あまも人あは物習う

るまのそらと計りて
雉子の事なるわ雉三の糸
なうらわらなるわぬう
桐 枝も初葉よちる籠るわ
連りてそのまきてあつら
糸物めく一産子二勺あり懐
男をい海こんと約きとも
排よ六枚初く月ふらその
板乃桐一とく悟桐とわを
くく又一とく一い外り
きりほがきりわら桐火
桐相乃箱木の板おもあ
寸極物よもるうき桐相
をくくと一とく一い三勺
の物と初ぬう一但相つなきり
り産門を籠るゆも極物よ
ハ二勺まき

小糸 糸なるわ霜月下商の
日なりの免平元年はらり
糺 只一糺よまきつと計も
糺の糸なる野狐小糺のた力
糺又野子糺の糸婦よ
乃初とく今一とく一糺
川を糺乃まよあはつとい
ぬりあまきり付ともくじ
く産ぬううとくうぬの糸
ぬう

糸と名は 三勺まき

君 人悔之悲之依り初大
志ううそ非人悔大志

と天子の御事一こもあはれ
無うもあはれさるるりた
とさるる白もあはれと
も皆帝の御事一あはれ
あはれ一とさるるさるる
のさるるをさるるなり
人倫なり友なりも客なり
名と事なりあはれも人倫
和漢は玉乃名人倫はあ
すその人倫はあはれ玉の帝
王計は天下とさるる
霸王の名は人倫なり
小も名とさるるさるる
あはれさるるあはれ

菊のむ

菊のむ あはれとさるる
名は菊の音とさるる
二のさるるのさるる
あはれ

菊

連は一の事と雖も二
あはれ一とさるる
衣の衣の菊とさるる
もさるるなり人倫名
菊は丸も此名菊の
日の菊一文字菊の名
菊の石菊川は極菊
菊はあはれさるる
あはれ今一とさるる

秋

菊の海

海物 あはれ
あはれ

勢乃難

まうき

波物障物居
取の流まも二石

まに垣おの回ををきうぬ

と務る

わうく又勢のい
海うくあらし

御よの勢ちと三ありくく勢の

ひまこと一とくことちり

勢の音とつあ

お音に音い
のま物こ

垣り物こゆり物おも極勢の

うとつひく別よまぬことれあ

あおちあつ次勢不勢中ん

音然ままこゆおも極うち

只林の勢の事し

まはら

月次の月二石
多く一誕生

おも同あつとままひ月次の

月とまひむ月さ月さ月

るらうま月の事し月日の

らわくままこゆとま月

次の月なりまの月れ字

おの付くもくもくしりあ

ままのまもつああるるる

は文字の処は書あれま

又まよまもつり

まはら
夜二石ま

まはら

まはら
の類るり二石

まはらまはらまはら

まはらまはらまはら

まはらまはらまはら

と云き乃詞遊より一遊より二
ありを取をくくくく

曲水宴 きんすい 二月三日おぼろ

祇園会 六月廿七日

乞巧真 きこうまこと 七夕をまつるあそ
びなり

水野祭 八月廿日なり

さうわ祭の駒 しんげいのなほこ
秋なり

さあくらり さき 衣敷なり
月のお袖をゆき

くくくく

遊

夕暮 ゆぐら 只一遊よりなり
と云くくく

夕陽落きも二句の内なり

夕暮小舟を平橋次 たけなす
宛 たげ 宛 たげ 宛 たげ

又字別るれ二句の内なり

とも夕暮とり夕暮と六面を
三遍し又夕暮の海の家は
字もれらる乃字美の字より

不極

夕暮と云ふ ゆぐら ぬかのまじり
いづか

夕暮小舟を平橋を極と
二句まじり一事の内なり

しらくうしらめありとふもふ
の執るり

クフ 連ふ二排よいこあるるり

クとくうらるるおふ一はく
あきそ二産田句物と排よいせさ
と後よ續句お傍おくく又句
乃物とクフハ連ふもクハの字乃
書よ河連も排ふハクとクフと
ハセ句まきクとクと面をさくし
クフとクフとふれククとク
クと組合連よハクと六あり排
よハ八有たわ排よ續く二句
三句わらうらふ續ゆハの字
クフの字とあう寸句一後よ
續くも續よらるるも組合
一産よハありと不知らククとハ

せさこの字ハ皆七句をくつ
知へクク字よさる喚ふ来た
そられくは皆三句まこらま
大書るさくま排乃くくく
と排のまむのまあくハ二句物
及こ只一クフ付ふよあり

ク立

寸只ぬの者るれとクハの
字ま乃字よハ三句物ま
書の字よ二句物とまハク
一但排よハクハありのり
風あく今一句物をくく
あろこま耐るクハの字ハの内
よつりくク付ふよありおあり
書ふ三句物約耐ふよあり
塩梅り物おも二句白雨とまハ
天海由已は橋山答く物
よありとクク排くハ丸り紙

月影を連よも二重六辨
うへ白縁を久三よりへした
そく進へ入ねるやう時又時
い流進もわさうゆへ

夕月歌

秋の夕月のまきこと非
新夕月の月

夕流

夕八入日の事あり
月の字ふあう流
されたり月歌と名まことうり
流へりし寸は流地なり正流
さあ又字の字よくうり

紀

夕流

辰星と云星の名あり
天象の事ハなうり
とハ難し星ハ八角と可月

夕山

夕の端山あり

夕川

肥後乃名あり
よ書の字よ不種

但白辨よ海あり

夕

夕の字よ三白種と

ありあやまわとお越りも
対ともくうりし寸あり夕
時分よはちとありうり
約時分よも夕時分よも
流の字よ三白種とあり
流の字よ三白種とあり
瓢箪早しハ行をうゆへ
越み瓢とらわりし

とん終の度之終回り瓢と
算とこ久を物瓢少く水
との三算小食物を入あり
取魚うめんと言はくまゆ
ひさの物乃屋うよ人の
物う左撰本うわん下に云
付うち受るれしを分りて
魚魚しけ魚うん句神よ
うわく終よを所なり只ハ
難しゆく魚れひさこを
ひ名乃内おくらうは終とく
ひ二三まへ一々魚乃宿ハ極
物うり終なりしむとくてし
なこ突の字あれし物こ

クア
よハ之句終の終ハハ二の終
分こ終何ふおもク何ふも
きうも次骨の字よりハ面を
きうも

ゆ
なこあ通か
神祇こク何ふ

クア
このうかん字乃ハ
字神傳の終うこ
おろろくハ面代傳う人わ
あへく

梅
神祇よあ
終ふなり只
鶴乃事こ空笑のあおも
里

雷
連よハまの雷と入も
産田句の物と次離りハ

古交を鏡跡おせし事あり
海しと連珠よ万葉の交を
不交事あり人々や宗祇宗
長阿ふよ八家士の交を雑よ
せし終しとと代赤人の甲子
乃浦の交を新古今の冬乃
部よ入ふ事しと定家く澄
の時万葉の交をへ不交月
と雑登しと冬よありとあ
定しとふりもお交雑まの心持
を不交お交ありとむらさひと
と人中心しととふと海と音
てきしとあり海しとのを世業
平のよめ家あり侍勢物語し
鬼もや一日よくひとくさつと
二條石船は死にたるといふ
よめ海船は死にたるといふ
殊勝されしとと新古今の
表傷の部よ入らばい集を
連珠の去處乃鏡とありは
い交も表傷の交をたの意
の部よ入ら終し意の交を
あり次といとんや尚終の
習い捨集しはあり事と
水りゆり新古今の部を
作しと万葉のらとの日記
えととその表傷のたわとた
しと終しと交と意と
まふ事乃理とありとあり
ありとと次連宗祇宗長阿ん
ち交はしと法と物ありと交
あり只富士乃音の籠りす

みかたりあふいおよか明
もろふ理あふいあふい
ふあふい愚業のなるあふ
りあふいあふい

あふい ゆふあふい 連あふ
あふいあふいあふい

七句あふいあふいあふい
不対とあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい

あふい ゆりあふい 撫あふい
あふいあふいあふい

あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい

あふい あふいあふい あふいあふい

あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふい

てち滑ぬものよ空りされ
し雲もむけも皆去りしもの
加ら雲のひらも雲乃清
事も冬よわき先留ま
り空らとつらふら
ぬと

雲乃山

二又あり一よの雲と
あめく地り
山がり雲まらきの新こ
臨物こもて非山敷二り
久空の雲山こ句神ふり
やふこのりもも非山敷
物よハ端くもふも成る
清もつる雲の山こ形を
久
雲乃山こあら

夏小

幼二句まの霞とめ
月のさじらるも二句

かり連よハ七句まの
夏小
久ともつこの字を
新ふよあ

夏と

成し依句神し
夏と
りもあ
と云ハ夏
性事
一
年月日
高云
あ

夏秋の秋の夏なりくくまきく
との夏ちの秋なりく句解よ
よふ中し夏中間言夏想
必解なりくも秋なりく
寸夏の字よいふ句まき

夏の世

夏のし〜あ〜ま
詞解なりくあ〜ん

夏めく

夏よ二句解なり
あ〜ん

夏小夫

夏張月年れ夫
ふい敷なりくあ〜ん

但可夏秋と新式図の折紙
をきき〜物のはよおせり
らと夫よ折紙き〜人
ら事〜あ〜の小書はら張
折紙をきき〜物よあ〜ん
折をき〜人〜まき〜あ〜ん
〜のらよ年の夫も二句
年の夫よ〜のらも二句
かり折をき〜紙〜八月の
らと年の夫の事〜ん
解よはら張月と年の夫も
面〜り〜と〜紙〜あ〜ん
想あ〜りの字〜あ〜のらと
月のらと連よ二句まき〜解
よはき〜と〜夫よ二句今
あ〜ん〜この物とす

ゆ

非解なりく〜ん
解なり

好く

好の字よ末の字
と二句解なり

事いふなと書くゆゑ
しむぬこゝろの極く
世の極く忠よりの足あ
わりのぬゆゑ忠より道
ゆゑ忠よれ極く忠よの極
く忠よりの向ふの文よ
あつたゆゑ人の忠よの
まよふ向極く

ゆゑゆゑゆゑゆゑ
二のまゝの極
極還しゆゑのまゝの
あつたゆゑ

ゆゑゆゑ 二のまゝの極
ゆゑゆゑの極

ゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑ

船橋の傘

巻

名神

非若名新式如びわ
ふらふらふらふらふら

乃神位者乃神さくPーち

名品よあ〜ん〜ん〜ん〜ん

そゆるるそ良の系よたつさ

神もいほくのあ〜ん〜ん〜ん

初流中〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

去日大明神とPーふら〜ん〜ん

よ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

あらしは物を名神と云ふは
 とへも恒者をい上ははと云ふ
 是れを物と云ふはと云ふは
 物ももたさなるあやまり
 産はたさるゝと云ふ非若はと
 うはあつて今一は連よはと云ふ
 あまは神よは神乃は名を名は
 よはと云ふはと云ふは
 要なり但しそれも神に
 神垣とり云ふと云ふは
 と名前よはと云ふは
 句神より寸と云ふは
 成と云ふはと云ふは
 理しと云ふは武月乃と云ふは
 神の美名をとりよはと云ふは
 美目恒者山野と云ふは
 名をいと云ふはと云ふは
 成なるはと云ふは
 定と云ふは物をおきれ物やと云ふは
 るのりと云ふはと云ふは
 山乃字ありと云ふは
 乃の名よはと云ふは
 と云ふはと云ふは

和布 雜と云ふ和布一はと云ふは
 和紙と云ふはと云ふは

名取と云ふは 神よは二句と云ふは

名取の云曰ふ 是乃字日
 の字はと云ふは

もくもくはと云ふは
 の事は一切乃同字別字を
 婦と云ふはと云ふは

字よの三句まへ

名木のあゝ 秋に名木を
くあゝのあゝ

月 只一よそあうきめのる
よ一本のめひかよあはし

洲よいんあめ二こくと教へよ
うそてもひ用るうへーうき

めよそあめの肉又木の目る葉を
のめ山椒のめあゝあゝのつこあ

いらのめ置のめあゝ乃類
あわらあゝ連のあゝふあゝ

とれと洲を流すりてさう
ぬものしと詮よそあもこき

めも人あゝよと目あゝのあゝわ
よ一はうと回あゝあゝあゝ

字いんあゝあゝあゝあゝあゝ
よ一はうとありとあゝあゝあゝ

も人あゝあゝあゝあゝあゝ
八わわとあゝあゝあゝあゝ

のあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あつらふなりよの不揃と海り
し一面をききしぬるし一但行
ともききしぬるよこ多りり
と海り身よよのと海りな
まてし辨よの二意よこあるよし

見

初 不_レ止_レお_レ布_レ取_レ新_レ式_レり
初_レの_レの_レあ_レわ_レる_レ意_レの_レ波_レ伝
る_レ考_レも_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
と云_レ句_レあ_レま_レつ_レし_レ意_レの_レや_レう_レは
か_レら_レひ_レる_レ次_レ人_レあ_レる_レよ_レし_レり_レと_レ
不_レ止_レお_レ布_レ取_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
山_レの_レ初_レ池_レの_レ初_レ開_レの_レ初_レ宿_レの
初_レと_レ只_レま_レら_レる_レよ_レあ_レつ_レと_レ云_レ
初_レ乃_レ池_レの_レ初_レ開_レの_レ初_レ宿_レの
と_レま_レ川_レ人_レ修_レ用_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
を_レさ_レら_レむ_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
る_レ初_レ乃_レ池_レの_レ初_レ開_レの_レ初_レ宿_レの
云_レな_レの_レ類_レふ_レも_レさ_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
又_レよ_レ非_レ非_レ取_レ又_レ意_レの_レ語_レ詞_レよ
あ_レつ_レ次_レ連_レ小_レ一_レあ_レま_レつ_レし_レ辨_レよ_レん
二_レあ_レる_レへ_レ一_レ意_レ取_レふ_レも_レ意_レよ
も_レ揃_レふ_レる_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
あ_レつ_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
意_レ取_レふ_レる_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
お_レも_レら_レる_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
久_レ字_レと_レ云_レな_レる_レけ_レま_レつ_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
小_レも_レら_レる_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
ま_レつ_レし_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな
意_レよ_レ初_レ乃_レ池_レ初_レ乃_レ云_レな

く所一りく寸女も持合る
白の邪魔よまるまきし正久を
見さ所るる座と物と別
くの物とおりに所る一初
或よ不正の所正とのきこれ
とる座とつりりあらんを
多り座る人あ乃物たり
物と人家よあさうさか
物と心し座をそ板座乃
湯字と心あく座あ又場ふ
事しと不可あそれも初武
小得りしりあ極さしむし
ま物初もあさう一初武を
りく初定をさむしよ
されし物又あまらるるハ排

るわ但可法而好

漆しつ 只一若所一ニ排一の二名は
よ一ととるわま板の漆と

い三乃内之水の字よ不端

若所ありといふは二名

中ある一若所二もあ

排一の若二若所一又若所よ

二只若所一もありさくさ

あくくも物をくく一若

小三あるも若所と上巖松

あく若所よのひくも三の間

王生忠若所あくと人若所
あつ若所よの山類ふもくさ
心人願とま字よりハ面汁と
て場と若所よ若所と若所
甲也若所若所連よ若所さくハ

洲よの面をきくしぬるくし
 上を山宮をきく山あしお
 ときよのねをゆふに面を
 きくしぬ流連よまらしくし
 洲よの言をねあはれゆひく判
 乃字と不撞山乃とぬききおの
 器とひとくしきとのとり管
 とる計あくゆひそあしと
 乃とぬるり愚成院たわ山
 のぬるふおおも面をきく
 かりめあるふよわ文字を
 おくゆりゆり句神えりり
 のけくもくゆしかく神をね
 六神宮土の神おのこしと回
 しゆるるよしりもをきく

三日月

連よの二座一をるれ
 とも洲よの地のまよ

よ今一あるへし三日月の物
 非ねがふ一丸えきくうへ入のねを
 ありへし三日月と汁のねを
 かり三日月の物るを暁と
 ぬるる人あり非とねぬく物
 かりあるねとも物阿ふのぬね
 るしあるとありを可非ねが
 三日月よ日次付事場とん次
 初 一各流よ一橋よ一新式一
 産三句の所よぬひあま
 ともぬ代をねと六只二句あ
 笑と云言扱よもんえあり
 洲よ八初一各流よ一橋よ一ひ
 亦よひるの初必の初月の

初勢の初 月多敷とわくくくし

勢多敷とおくあくくい竜の初

不守有南初とわくくいふあは

乃邦不守山有系初邦一野

上京下京四初遷初初京

平安歌洛湯洛中洛外下洛

東京西京出の初と一あくく

心と口わきくし洛初をさくゆり

九重九重とあくく初よ面と場

大空禁中一衣表百衣を井

乃庭大内山仙洞院の初あえ

とりの洞初院の 初屋乃山

あくく初九重よ七句去人

は内おも初よ徳と漢より續

との系つりめ初よりあくく人

初の初初初の初 初龍宮

あくく初よつへく別の初の初

よきこ初るる初くもくく

くく初あ初ひるの初も初

とくくく人とも國府の中あ

中せ初よ付くも不若りや

の差あとも初の宗通初平

可く初あくく京初洛の二字の

初空の目るれと初よ懐く

も平よ初を可く初く

初よ 占る二句場とあわくあ成

とくくも不守初初よ初の初

とる面を場とあくく初より

七句初初よ志初あ初の初

初の初初あくく初を初く

あまつし漙よい面をて踊るり
初名不不不

初鳥

あまつし漙よい面と踊
とあれし漙よい七日く
こまするうろ初乃字々わけふ
物るれし漙よい初と踊るく
乃内よと初し文字小けく
初を嶋といへし人ぬ重
初ゆふいぬも不可極られ
憲法の案験する初又初鳥
とさるこままよありい初く
さの盤 不食 無山上人 絶巴よ
同くせし初しゆへよ初合ふ
奥義と初めを極るとす水
まるとれいさるとあられしと
初名不不不

宮

四初紙よ二皇居より二紙
は内一紙くい名ふらるへ
宮はくへし裏よ一初り漙よ
中宮 毎宮よ名ふらるへ
宮中 後宮よとと初よ漢画
と宮とと一初しとととと
宮は宮よ名ふらるへ
初は皇居し名ふらるへ
尾上のは宮よ皇居の宮も初
よあめく初しとと初紙るり
皇居初紙混れ多ととと漙
よ初紙あくも皇居あくも

名所のうち二非名所を二
較ふべきことと漢宮一はと
み句と知魚一は^{あつち}の交
非母一は女宮 交後れ中
名乃交の非神祇 非名所
人偏に皇居の事乃二句は
よ一は交の非神祇 非名所
乃字は於二句まじきこと
較入徳時を付くも不若又
猪の事首おやると皆二句
かり物よ宮首付句偏に
此系物あつち較入よあつ時
付くも不若人の名よま
りよま松あつちの事宮の
内はま^ま神祇しはまは
權外神祇の事おの^まは
み乃四なり

裳小

蓋打越を場小同云
由は裳の付く

昔の裳は日小も今もあつた
もさるる物よ付くも不
若裳をゆり物よ不付く
浴物小付くも不若裳は浴
物よ不付くこと、^私に
裳の浴物よ打越とて過
但ゆり物よぬぬよ付く
もくは

三字帖名

甲一面を場小
ハセ句可はま

字帖名と云小場ふと不
と名別あり不場三字帖名

心洞を枕をきしよひの梅を
屋うさふよ文をねり 嫌なき
る會りくく會りくく
くくくくくくくくく
ののののののののの
あきくくくくくくく
さののののののののの
ゆよあきくくくくくく
うけくくくくくくく
ゆも松成もあきよふよ
洞の中よわりの洞いとゆ
はなよきくくくくく
なき只二梅をぬく
俯視のさあさあはく
くる あきくくくくく
ホの事よいわくさあき
くくくくくくくくく
名とりくくくくくく
成會くくくくくく
水はきくくくくく
成ちあきくくくく
あきくくくくく
くくくくくくくく
あきくくくくく
あきくくくくく
あきくくくくく
あきくくくくく

ありと連よりけり誰いより
は乃倍終をほくみぬよ清
乃字ぬくそまうにそく
なく空くひ百約調りの
たしをんあんぎよこ
これけあよまあまひあ
去り空あまあうり終に回よ
こまうしそ面をうあへあこ

二七の野と終野 二七又
まあま

あされし清の字よ二句
まに同云三文字正字あさ
とまんと清の字よ二句始
や答云昔野ら白皇あさ
ふ火清の字をまもら
清の字を終野とあがあ
まゆらあこ

見られ 音小七句あよ
白同云六句の物

あ三句あさふいこまれあ
あはあああ三句よせま
答云余のころふあああ
ハ三句去あハ重こあ連と
しつああま

菊系 三石清ああ
系三月中辰の日

たり

ああし 秋と連よ二あれ
誰よ六三ありあ
乃字人倫よた清と温涼
いやうとこああ ひとあ

うんどう 舞臺よりあは清二右
き

御清 禁中の玉階より成
子より清乃字をか

取し清くしと計へ皇居る
ふれりし皇居不備清の字
形くしとささけし二階三
階より皇居と玉くしも
居前く玉れ字のわらう詞
たれし清くゆくもあま
らうまさはしとささけし
清清とらうまは清く清一
とくわをえんまきりしある
ゆふう他句御回し清一
清は清くいととまへしこれ
も回りの不詳なる

あはく 之句水のぬらむ
まき清くぬらむ

しきと 回を清く清くぬらむ
むとらうのまき交りまきまき
そのぬら水じとぬら清く
じとまら交し水ぬらむまき
と清く清くぬらむまき
乃ま清くぬら清くぬらぬら
まぬらむしとまきしりの清く
ゆふの神ひらぬれぬらぬら
くちとまへし

お後お ちぬらぬらぬらぬらぬら
しぬらぬらぬらぬらぬらぬら
かぬらぬらぬらぬらぬらぬら
ぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら

油

まじらぬ油のりぬるせ
どくもまらわ

うり

無きよ云津の字不
嫌と云説少何物し

二句うみわう二又句よ治定を
句一うしはいお種と云ハ種の一
字と云うこと漢と云いウ味の
字をまじくくまら物多一
ららむと戸種小物く味下
まじり酒の正字し酒をみま
みと云よわらも命一酒を
三寸と云う正字よと命時春之
ハ風寒人志力と三寸とけく
吹と云わら名もりのりまも
は悪光去夏あましは乃らま
を付の汁種ふらと一と云
種は乃ら敷へ種物をせせし
わり屋うよ治の字よまきと
まてちる物も所ら養りて種
不他其産の家通次才よま
まら命りのし

道

二句し

三

揚列 豆列 海國小わり
よ山敷よあ次他揚列

乃らあ通し豆列をあ通よあ

江

二と一の各はなわ

み

幣は乃字に名種
丸はくく幣をて

くくと續よ子細もへくとね

と清の字は付句を不遠
幣の社の縁梅りく海にます
社を社檀と同しは
社のとらうとらまじまの社
乃の成よみくひひひひ
あり人作りくしるさよあ
とよの社社とらまじまの
ともわめく清乃字をさ
付るさひまといれまは只幣を
乃くらくとらと汁のゆく
乃字よ不遠とらりむ新式よ
船の朝といふ字付くとも
しるさひ梅乃内よ入る
付る不遠幾とちり思ひ
らんでらくも清乃字よ小ら付句

み

帝とあね清の字の付く
も不若石法門とて

りりともとまともあり
まもよりの門は西をさ梅りく
つともいれと帝乃の字あり
よは法門と書らるん那と
て字の讀をりりく去も又計
たり根おる大裏乃梅りく
ひは乃内は海に清あり
天よともかこるの字あり
ともともやまもれ清名り
るりさくはま門の字あり
う梅りくまよ帝の字あり
はよ帝の字あり
よの梅り清乃の字あり
まよへまもや既は梅り

字よわも不極もし始を
印を責歎し〜付らるる
名るれ〜も構いまふよふ
宣ふれ〜もか〜も
よ新武ふ〜もり〜も
あ〜は〜の〜もり〜も
い道理あ〜も〜も門のま
も二向ふ〜も〜も
物と再姓事〜も字ふ〜も門の
字よ〜も一向不極付〜も不
昔もあ〜もを〜も〜も合
多〜も成〜もゆ〜もあ〜も
云名と法座と云〜もり付
〜もり〜も〜もわたり〜もり
あ〜もあ〜も大宮よ法乃字
屋乃〜もあ〜も不極連排
よ去〜もあ〜も〜も
字よ〜もあ〜も大飛乃法ハ
あ〜もあ〜もあ〜もあ〜も
ゆ〜もあ〜もあ〜も

みあぢのり

勅〜も法も
あ〜も法の字

よ二向ま〜もあ〜もあ〜も法
あ〜もあ〜もあ〜も

見

社よ〜もあ〜も一切の法
乃字よ不極一法〜も二

向ま〜もあ〜もあ〜もあ〜も
丸あ〜もあ〜もあ〜もあ〜も
そ〜もあ〜もあ〜もあ〜も
社よ〜もあ〜もあ〜もあ〜も
示〜もあ〜もあ〜もあ〜も
見〜もあ〜もあ〜もあ〜も

字二句婦ふと無言よわらふ
得る只付白汁婦ひくで終
かり

御茶おち 約乃字二句さう
かり

みさき さうさう東巻然乃
之坂留清乃字あり

見らぬ山 こゝのまゝの浦さ
ぬらぬ山なま

いづくの藤と他句よさう魚
しとさう

水みづ みくさささうくましく
みこりみくぬきと

皆と句ま江と物さうと二
句まみまきつくと句婦ふ

ふらふのあとお 写し繪
ま文何

まも他び流し一かしくんく
まこよありい内あまま
書物の夏草の夏名さう
又まの車まなけよま
るま不守同さうわ
繪ま不書又乃字も巻巻の
又作れ巻まさうりくま
小の物ま物乃むの文
寶文撰 文學者おの類ハ
不著い流まも依るま

道みち ま路巻路まとの路
ら二句まらり山路あり

乃巻路よのま句離りの
まこらまこはらま

寄るふも踏ふも二句を
九折しふ乃通るふのり
変るふぬよ燈路山路
路三句を

^{かき}震ふ 吾面をゆふ地離ふ
七句三福ぬいふ句を

みづらふに 縁乃字不嫌
或鏡よれを始

とらふらぬ後たよあふ
とらふらぬもつら付事
つらぬらぬを不嫌
吾を者の又後ふを
ことわらぬ小児をこと
ことわらぬいふ事
見とらぬとわの起り
縁道のぬるれは
と鏡を不嫌

方るゆりく ちとて
逆懐他句

よらふこと

あふふのり ぬとり
蝶乃移る

かふらぬ移るは合
可ふらぬのふのよ
吾言ひ條を去
寸を不連秋
とらふらぬと木食
路のく慈悲のあ
後とらぬとて
まふとぬよ
あふらぬらぬ

ゆる藤を小虫さるればかた
ひいさうしとわあさ海一は
波はた大力をと現とれい塵
をいよらん小身を現すま
し芥子よ入るも一ち終り
もゆるりま記なきし物まぬ
群衆よい金翅鳥のあつた
大力も敷くらんきよ果と
くあま情もゆるり人の目よ
らいつたまあつて身家の三字
を対うしとて中々んや古
歌よい非情のま本のむとけ
力と流る事ゆるりさ後松の
沖さおもわりとらんとな
く向くともめくおちるち
大なる月夜あつてす

みるふ

あつてらんらんらん
くわりとあつて二句

まこらんよ折後と二句
あつてらんらんらんらんらん
も人怪よつり但橋より後
もねくまの不備を言ひ出
いおちるすまのらんらんらん
乃又又ま折らんらんらんらん
やらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらん
まらんらんらんらんらんらん
小栗鑿を折らんらんらんらん
もらんらんらんらんらんらん
あつてらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらん

なまこゆき まこのこまき 二

和蘭 にらま 正月十日百官こ とくくを新とまら

水口まろ まわり まろ まろ

こま ま ま ま

みさ ま ま ま

い ま ま ま

水 ま ま ま

世の方あく川は流るる方
ともくねとんあひうねる方
あま流方おま流るる方

義虫 ま ま ま

阿毎 ま ま ま

も ま ま ま

よの二座二句俳よの季秋人
あま三句三句町毎よの町乃字
著乃字付くも不著俳よの
町毎よの落物二句よの毎乃整

の二句よ

塩 只一焼よ一酌一ひここ俳よ
一塩塩あま〜整よひひくと

一あま〜一但整よよ海とを
焼塩塩雲雀塩魚小乃乃
よ一ひここ釣一か〜一か
塩塩塩干〜一か只一の肉
塩木塩全塩屋〜とあつ
〜とあつ〜とあつ〜とあつ
肉の湯と塩油乃事し連よの
三又よよ〜と〜と〜と

引二又の塩の塩の塩の塩の
久〜二句も三句よよ塩乃字
四乃か〜三句よよ衣のあつ
あつあつあつあつあつあつ
刻の事〜と〜と〜と〜と
三塩美あつりゆ事塩をた
あ〜と〜と〜と〜と〜と
詞形を三塩又字あつ〜と
年よよあつ〜と〜と〜と
一入二入り〜と〜と〜と
とれ〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と
あつあつ〜と〜と〜と
をぬ〜と〜と〜と〜と
面を三塩〜と〜と〜と
と塩とよ〜と〜と〜と

厚くハ非ハ備水色くしりし
焼塩 壺塩 塩魚 塩魚汁 菜
乃 志 下 ぬ ろ ろ ハ 非 有 出 塩 中
小 猪 小 塩 山 々 壺 乃 字 小
面 を 焼 之 菜 の 若 丸 壺 屑 煮
塩 小 焚 小 續 と 久 とも 味 塩 小
又 あり 煮 向 小 あり 付 け ち ち ち ち
煮 之 塩 小 面 を 焼 之 壺 字 の 煮
塩 梅 之 小 壺 字 の 肉 之 丸 之 肉
朽 を 之 焼 之 物 乃 丸 之 丸 之 丸 之 丸
壺 梅 之 小 壺 小 塩 之 丸 之 丸 之 丸
壺 乃 肉 之 連 小 之 代 居 乃 小 二
句 と 之 小 之 沸 小 之 新 式 の 之 之
不 適 居 乃 壺 之 字 之 あり ち ち ち
塩 焼 月 汁 小 梅 之 丸 之 丸 之 丸 之
煎 湯 之 火 壺 之 之 小 之 同 之
居 乃 乃 之 丸 之 丸 之 丸 之 丸 之
壺 乃 之 丸 之 丸 之 丸 之 丸 之
之 居 乃 之 丸 之 丸 之 丸 之 丸 之

麻

一 乃 二 一 一 一 一 一 一 一 一
ろ くと 穀 小 續 之 一
之 之 麻 角 雜 之 麻 野 之 雜
之 乃 之 之 之 之 之 之 之 之
と 之 之 之 之 之 之 之 之 之
小 之 之 之 之 之 之 之 之 之
山 之 之 之 之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之 之 之 之
麻 野 之 之 之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之 之 之 之
人 之 之 之 之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之 之 之 之
非 之 之 之 之 之 之 之 之 之

林と又山をささると木々
よもあわもは難ととりり
難しりのこふたり難と
もまかを所と難と趙高
うむまの干麻 菜々ひの麻
い二も難と或いふとり
難或にいしりりりりり
くくくくも秋の生敷りり
二句麻田の内は難 鹿鳴
乃名ふ乃名は田乃外は生敷
もわく次は生麻乃字りり
面をささりり踏麻るり林
下りえ

下りえ

うむりもふの文字をへりり
下り林は二句の字りり
難と下りも同方りり
林りり二句の字りり
りりりり林りり二句の字
前も名ふ乃まを代の
くのありりりりりり
或も下りりりりりりり
よお然を場とわらりり
原と下りりりりりりり
詞まよ成りりりりりり
原りりりりりりりりり
生わらりりりりりりり
下りりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
る末世の小智の分別りり
大地をりりりりりりり

乃志傍岩のしき海嶺のしき
佐連山峯海川の多よも下
崩ちをまゝのふりよ整この
原うまゝのふりよ整この
云況ちうりりく愚成統るれ
し能よハ新式のしき下前
こ計もととふましとお定約
ちとけ況敷あふふしん

下字

下茨下紅舞赤れ視
よよ山ヶ舞りあてふ

との又字そとてまへしき
ふりしき云扱よあましき
さくしきもくろしきかきさき
ひ下の字は傍きく人ち不
審あらしむしきく自胆のあ

あこの字

連よれを始と
あれし能よハ

面を可け始けと後よ續
ても一産よふこありしき
てもい肉成るし同云あ
れんあけしハ只一句てん次
吾云云とことあわりあも
あけしあもくもけと後よ
ふあわりききお湯よ一産よ
三又乃内又句ありしと知
諸野下野とくけたあま
おこも寸そ衣の裾ハとそ
整よれをま塩下の字より
寸そ野衣の寸そ三句志
なりと寸そハ纏乃一字
あらしめよ二句志

下細

衣類と云く乃帯と

下細と云く名取乃下細乃

実入と云くやうの衣類よ

わくさゆひもきんこの内

かわ世下細と云く下細の

実花乃下細と云くはくさ

と云くさゆひもきんこの内

下細と云く下れ帯と云く非

帯と云く乃況るわ

あつ約

あつ内よ人をまひ

事と云くわ

志のふくくんまひ

船よハ
右名よ

いれぬき道通備其味約張約わ

思ふとく連ふもあまを離

よハ勿編こたま志のふの浦

とハ不守者もくうの名取の

場やうと連よハ離とくこま

もくうとく結とも志のふを

つ里船と今一とくそれとこ

白るうとく懸るうとく不

又懸る新の志のふたうとく

名取乃信まとい又字各名

かたし不可離世志のふと

ち名取乃志のふ乃里とわ

おる結とくく懸るあ成段よ

とくわあれと目形よと云く

想あ志のふと云く親よあく

うまきり一とく何心るもと名取

乃信丈一ハ物をさく〜志のふ
心一ハ物よ遠思とららん〜志辨
は乃愚辱いぢの衣をささるる〜と
と云敷〜又一ハ考古紙心〜
を志のふ〜も云々〜わもふか
うりわめ紙〜吟味〜
合を〜法場〜

志のふ乃むます〜

あ〜も〜も回赤山敷よ二百
志乃の志のふを信丈と〜り
事り志のぬをさく〜
のぬ乃郡る〜云々〜
愚乃思思乃乃志のふ〜
ぬ〜不吉志のふ〜

愚乃思思乃乃志のふ

志乃ぬ揚 奥列信丈部

消されし拙物よあ〜次
古のを〜れ〜紋ふも思
と〜らよ〜りみ〜るの〜思の
〜ぬと〜人よ〜あり〜
ぬ揚を思思乃乃志のふ
連よあ〜して〜
揚も〜あ〜ら〜
よ志のふ〜ら〜
〜り終〜
思思乃ぬ〜
〜ら〜ら〜
小西端

あふれ字

愚は二只二つと
田連よあり滞

よの愚辱乃衣臨愚あくとく
類よ續くく一層よ又二層と

志のの車

愚を愚よあくとく
さらの況不爾愚

乃字又乃内も但之後白紙也

し文子

さ右のし二句ま
るりさ右の志と

へるしありしあむいふ

し二句むいふしとあらし

まし木の敷くる右のし

とむいふしと八対くも不
若

しと油り

清濁うりわく

句の橋よ形合くも付句

場之あともぬりし清

らわしあくとくむじとあくとく

しと向ふしと中あくとくあ

しと向ふしと中あくとくあ

しと向ふしと中あくとくあ

志乃め小

朔と約二句ま
又時分よハ不端

右新式よ変定とら紙を大

紙成連款紙志のめりり

時分場ハと紙とも作をよと

紙くくしと注せりも先達

乃心を不意道理をよ紙ま

ぬあもあもえくう向へく
も

志乃めふ 目の字一句又

乃とい面を二編志のむく

志のよ物あふまふとんあまふ

不替志のめとらめくこれ

かわあふと物あふよあふ

あふ物且よ折紙と編む

紙をりあふ又河ふよ下は

いそれまき

知よ 志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

志乃めふと二句ま

乃下は鴻一若くは一とか波
 里ある事いへ海よへ鴻二若く
 小一の上と云の物とわさす
 界へ一極山敷水色とよき
 ぬ鴻ときつらとぬ鴻ありた
 とへん川鴻池乃中鴻屋
 のちいさく又鴻を水色と
 よきつらとぬ山敷よ海と
 鴻海鴻えそら鴻臨海の
 鴻ふの國の若くは又國乃
 山敷水色よあり守又國乃
 若よありとさ積とも鴻鴻り
 原遠つ鴻宝の鴻山敷も也
 よあり次田たの乃鴻も水色
 汁あり山敷よあり守鴻
 只いさつたの鴻海乃原よあり
 只いさつたの鴻海乃原よあり
 敷をて山ありよあり山
 敷ありありよきつら海鴻と
 ち計とも山敷あり色とあり
 へち志極物鴻りありとさ
 のちあり海乃水神あり山
 敷も水色ありあり守と
 ありありありありあり
 ありあり山敷ありあり守

白尾鷲

長鷲をけつる時政敷るさ
 交を鷲のきつらと守と
 白羽ありけつるありあり
 白心あり鷲のふありあり
 の白とと鷲ありとんて山

へいぬらふまうらふあめんやの
傑なり

志賀久の山紙 昔のまに今も
悲き花と結ひ

へい非語

為の業 友このあ業種乃若よ

くも業種のいよらうさば
白紙うくく花の若よ成る
友よを海と色を世とよわ
まらくぬくまのち日よまを
とく牡丹は混乱をり物乃若
おも管見未知執事性若
万安万成成はよあいと業
と結ひり結ひる若業と一物を

牡丹よいあ業種乃若

牡丹の草種うまのあ乃若
名も若業とよあと世と

う心のぬれと気木の和名
小為業と対もい洋編か

あく玉種ゆまうし月種と
なまよこのあをく種とよあ

といふは用次宗徳の説業
変めを和名よまのいと業

とまといふなり又説よ為業
をありのまよとまの味しり

りりるるまうらふあま
花のりくあくちりるまよ

まびあうらまうらむね
お書いまうらむね

猫木の花もこ七日あ物と

中世の為業より起りて大
目事として多岐いふれど
そのつらきものと云ふありて
見ゆらん知くは難に用

清水

難に結ぶといふは
かたきくも交り

只あを汲る難に只あを
結ぶと汲ると同事しあ
難に清水結ぶと云ふは
しるは二句清水ありとあり
面は清水の水増えけを
たつり難に面と増し清
あふきくも交り
汁増えあつては名前の
清水ありは二句清水あり
この清水も二句清水あり
きくも交り
せよと云ふは山影
あつては二句

柴戸

柴屋は柴の爲に柴
屋何れも非植物

居る所を別は柴薪植物は
あつては二句ありあり
く新式は柴戸と云ふは
ありくと云ふはありあり
の屋は柴乃戸は柴は柴
るゝの類は二句は柴は柴
んは柴焼あつては柴は
又あるは二句は柴は柴
せぬとありありありあり
つらつらは柴二句ありあり
よは白紙を二句ありあり

右方よ多は葉のを枝るす
極約よたるは葉をこそこれる
は葉よころんば雑木のたふま
あらしさるはを山は葉をさるは
下葉との小枝をくつふ白を
皆極約成る

志をり

道のあらへよ葉木
乃枝を折るけく
至申し非極約ありと山は
あとの語文字より二句増え
ありく道よあしぬは中
あたるへ付くも不昔話
又甲し語海ありよいあも
不極

連懐のむ之詞為一句

時志て付秋おむ事

心新式の終しは極やりの
あしへい若たあしと連懐の
詞されともおしはらじ
あしあしと云句は人なり
計極と連懐のむは不極と
事申し但しと世とあし
いあまんのり乃るあしと云
句は連懐おもはむおもはむ
いり新式よありとても依
句極も一概よとて不極
連懐とくとと句

新式お山の

滴新乃雲

非極物とゆふとを不極思

宗道ゆり物り昔乃熟と不
八二句多りくくふりくそり
里び養ふ山に不乃中
古さち社の檜皮の物より
粟不動をりる前多り人
一古人の知恵をくくく
後ましく事よりゆふり満
連珠をよれをく物り下は
乃あくく里物を塩灘より
たりあくの粟下物乃粟下
物よあく

宿

一宿二句の物くくく
くりありあり宿の非
たり又中の上虫乃宿の
も回お宿宿池回乃宿
乃宿の宿の宿の宿の宿
迷懐と又町方より年を
杯と町の宿をくくあり
迷懐よりく宿の宿より
友と同宿くくくくく
人宿の宿の計の寺より
宿人宿の足あく宿の宿
塩宿の宿の宿の宿の宿
足あくあり宿の宿の宿
非宿の宿の宿の宿の宿
くくくく宿の宿の宿の宿
足あくくくく宿の宿の宿
辰宿の宿の宿の宿の宿
くくく宿の宿の宿の宿
宿の宿の宿の宿の宿
宿の宿の宿の宿の宿

くさ海あり 蓮よれよ一
ほく田あり

灘よハ面をくくく又三あ

阿かろく 折紙を不極
約阿か夕阿か

申こ夕くれと曙の影し

約阿かろく夕阿かろく

又句ま灘よハ三句ま

霜 冬まきゆかこしこも
冬余の波物より二句

ま

神祇とく秋夜とく

皆三句ま

あろくいとく 志ろく
皆三句ま

あろくまてくあろくくあ面を燈

ままおあび或目よハんる吹

はまあれまあろくまれよ一

あろくまてく又れよ一

あろくあわりとんくあろくあ

れん灘よハもわくあて後ま

よかろくおろくまよとれま

さあろくまあろくまてくあ

面をくくあろくまてくあ

あろくあろくまてくあ

七句可出まてくあ

まろくあろくまてくあ

敬白まてくあろくまてくあ

讀よまてくあろくまてくあ

おもぬも不替ま日よらん

乃日乃教く白乃字九

椎

紅葉をぬ木されとさる
の葉をさる存をりくあり
う木されと椎と汁も樹
こ葉も葉もび葉も樹こ

志げ

整り原り山りの山
さよふさうくさぬハ

只ちりつくとさ草木は紙加
さぬハ紅葉をさるし志げ
田の山にそとをさる年の新
葉こ古連歌よ志げとさる
うらさるら句のさる約り
さひらさるさあさる葉
の志げさあさるしとさる
てよさるのぬさあさる
乃字よあさるしとさる

花散るとさるしとさる
てよさるしとさるしとさる
野山さるしとさるしとさる

紅葉をぬ木されとさる
の葉をさる存をりくあり
う木されと椎と汁も樹
こ葉も葉もび葉も樹こ
さよふさうくさぬハ
只ちりつくとさ草木は紙加
さぬハ紅葉をさるし志げ
田の山にそとをさる年の新
葉こ古連歌よ志げとさる
うらさるら句のさる約り
さひらさるさあさる葉
の志げさあさるしとさる
てよさるのぬさあさる
乃字よあさるしとさる
花散るとさるしとさる
てよさるしとさるしとさる
野山さるしとさるしとさる
紅葉をぬ木されとさる
の葉をさる存をりくあり
う木されと椎と汁も樹
こ葉も葉もび葉も樹こ
さよふさうくさぬハ
只ちりつくとさ草木は紙加
さぬハ紅葉をさるし志げ
田の山にそとをさる年の新
葉こ古連歌よ志げとさる
うらさるら句のさる約り
さひらさるさあさる葉
の志げさあさるしとさる
てよさるのぬさあさる
乃字よあさるしとさる
花散るとさるしとさる
てよさるしとさるしとさる
野山さるしとさるしとさる

詞のむまよのくは詞のむ
りしあまのむまよのくはり
るの事と一字のちよの
P約

あけふ野ふとふ 極約
二句

ゆきはあけふ野ふと
いふ極約よきうと

うらむとあとの敷 百約
よ只

一とむ言と新式の非
を代むと代のり きうとん
あうのう後ふと一
乃物とせと俳語と
る一とふと入とく

新式の非と置を
あうの詞とけふ

ふれは皆下あ
あまのうとく
あうんあ
云詞と如の字と
心あうとむと敷
も句よ
あうの字よ
如の字の
とねを
連よ一
うらむは
あうの
てな

加筆

なり

鳴 散なり物うけしきのこと
あまのつひくも物し

能指法傘

傍

繪ふく草葉 依まの物可
其の葉

い新武乃心と縁よりきり
草葉まの物相よりあまの
まのまをまの物まのま
まのまをまの物まのま
二句まのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
乃縁なりまのまのま

一

乃々地准定

清心付 右巻のうきこと書し
おの字のハコトナキ

官さしれお人備し

あしす

あびす あひのちの
あひのちの 乃乃清

事し補律されし

補綴ありていへてお八分

乃内よしと候しりりりりりり

秋乃あひとあひ各々され

し付くとも候しりりりり

あ乃本 難しあ乃あハ候し
とくくくくくくく

乃々ハ皆候なり

は

あ乃 あ乃あ乃あ乃あ乃
あ乃あ乃あ乃あ乃

いよひりりりりりりりりりり

とあ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

うもあ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

いよあ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

橋ひし

多一能橋ひし一能
ひし亦小形を二之能
本橋相神橋ひしは二之能
たし今一より一之能
ある能入よりひし二の
門成りて橋乃く海川か
名亦にありて橋乃字二
乃亦成り

目め

橋一能一能の
相し文字も亦
よ出れりも亦もり
多れを板木と目
た能と能一能乃
能一能を能乃能目
く一能と一能

乃の

ひし一能橋乃一能あり
一能一能乃能るれも能
あり二能ありり能字よ三
句板乃字も同あり
物一能を能ひく一能物
二能とあり能なる能
ひし一能乃能るる能
ひし一能乃能るる能

能いり

能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能
能一能乃能るる能

とをばし〜くたさるふ船旅
くの一筆よ三句をさへん
まへをさし

ひさり きゑお一月松よとふ
一龍猶よ六ひかりり

独歩の独吟 孤独の身 独歩
獨歩 獨歩 獨歩

今一と入一〜三句と兼乃名
乃獨活以りその独活曰名

あ〜い〜わと〜つ〜六付し
も〜ゆ〜〜〜独吟独歩

字まふ人〜絶ふひ〜わし
人傳し〜文まよひ〜り二句

ま〜し〜文まよひ〜り二句
〜し〜文まよひ〜り二句

ひ〜まよひ〜り二句
ひ〜まよひ〜り二句

二句まよひ〜り二句
二句まよひ〜り二句

松ひ〜りる〜人傳よ〜り
独よ一人とらり〜りを場ふ

独歩乃月と独〜りよ二人と
〜りよ三人は同あ但月独

松ひ〜りる〜り一人二句
ま〜し〜りる〜り一人二句

人傳し
人傳し

一〜まよひ〜り二句
一〜まよひ〜り二句

とうりめはよまねしつゝ字
小三句場なることり編よ
と云物も左同字とねたり
くれし二句可場と

火

四句乃物と能りしハ
漢句もねあつて入句乃
物と其面を場へし管火梳
火ハ又句乃乃あつて実乃火よ
七句まを梳ハ新式よ一産
三句乃取よあよあつと
き物よ火四乃也よるる
ありし程し能よハ又乃火と
灯と七句まをりし
多しつゝあつと家乃事し
と云しわし火とりし
されし火五乃内りし
急痛なることりたる火ハ
火乃字の焼乃字なりハ二句ま
と光とつゝ字の字乃字なりと
火乃字目乃字なり付句場
それとも光とあつてし
不痛と又火ともなりし
て燈教条中教条と燭燭燭
火の燭漢松薪油はささく
危くありし燭とあつと
子とあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと
昔火の火乃字の火乃字
乃字にハ二句まを結ぶ
管火梳火の字の火
よあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと

光乃乃子

月日星小一花也
ホよ一光陰りまき

心と心乃乃物し能よハ今一
くらうしとあのみ懐く心と心
いほまよの物をふるふるいひり
とまらりつひ日乃事なるもの
もも田乃肉し天像よ二句
増あ又くらうしと教よよま
二あらしよこいむひり一
るらつ流るらつあおひ

久堅

久乃乃子乃のまよの
まよのまよもよハ二句

まよのまよこのまよあまのま
とも堅しとまらりつひあ
まひこのまよハ久乃乃子
るらつ流るらつあおひ

久乃乃子乃のまよの
まよのまよもよハ二句

まよのまよこのまよあまのま
とも堅しとまらりつひあ
まひこのまよハ久乃乃子

まよのまよこのまよあまのま
とも堅しとまらりつひあ
まひこのまよハ久乃乃子

平野

平野上申目し
ホよ一平野れあら

ホよ一平野れあら
ホよ一平野れあら
ホよ一平野れあら

秋

秋乃乃子乃のまよの
まよのまよもよハ二句

ひけ 補綴しむる日
日産乃急 けのうらむ

うし 髪乃臨時乃察也

町 けふふしけしむる也

ひ けらふしむる一統也

うらむ 此事也

細 衣敷し物かこむ細いひ
ても同ふき物づく者

ひ けらふしむる也

ものおけしむる也

衣敷乃けむし下細い下の

もけらふしむる也

細しむる人いふ也

く物なれし物もいふ也

むしむる物もいふ也

けらふしむる也

ひ けらふしむる也

て けらふしむる也

も けらふしむる也

ひ けらふしむる也

物もけらふしむる也

けらふしむる也

も けらふしむる也

向ふ細し衣敷し帯の衣敷

よあけしむる也

帯の帯の衣敷し物いひつを

も けらふしむる也

けらふしむる也

けらふしむる也

けらふしむる也

唱もあつ物なれを待ても
 くらけしうけあうし道おほ
 きて帯細とて今もあを海
 とつ一具乃物大結とて白
 場へさし同云あうら下細
 と下の帯しるふくわ
 と結さやト帯とんさ
 をさむむ若く急乃白
 月時下細と同一白
 作もあまのしと産婦うぶも
 腹をさあく急とあうら
 又男のたうとあうら
 とあうらたうとあうら
 し積鼻視たかとあうら
 く結さあうらと帯もあ
 帯細乃下帯の結とあうら
 とああからあうら男乃下帯
 もせつあうらあうらの結
 とあうらとあうらとあうら
 とあうらあうらとあうら
 衣敷あうらとあうら
 連とあうらと帯とあうら
 道程をいあうらとあうら
 とあうらとあうらとあうら
 とあうらとあうらとあうら
 実とあうらとあうらとあうら
 結とあうらとあうらとあうら
 とあうらとあうらとあうら
 白うらとあうらとあうら
 とあうらとあうらとあうら

あつた

ひらひら

ひらひら

あつた

これをお手紙とてその帝におよ

二句をよ

ひらひら

あつた

二句をよ

しあつた

離

ひらひら

久く離よ二句をよ

舎をひらひら

ひらひら

ひらひら

形乃らひらひら

乃ひらひら

白き人

ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

乃ひらひら

まほしうくれとあふくと
おれ會あつくと作るなり
るわくと月換あつくとあふくと
と云連よ一と乃初と初よ
二とと初あつくとは法度
を尾あつくと理しるたあふと
とつとよまら初あつくと初と
へあふとにあつと

ひの

初林乃事なり
身初よつと初

ひのむわく

あつとつと初

あつと冷の字と初なり

ひこ

たつとあつとつと
つとあつとつと

廣

初田つとつと
日なり

初列よありあつと風あつと
初を初初初初

日

四月中の
申一日

ひの

あつと初つとつと

二の初と初乃字とあつと

あつと初つとつとあつと初つと
あつと六月初つとあつと七月初

あつと日毎よあつとつと
初元よあり

水魚

あつとつとあつと
あつとつとあつと

毛

物を

如し河を船とくく
二句し形式一坐二

句乃物のあよおせり物とて
つ三文字のあし面とくく
いふのもまら成ひ玉ふを
るくくとおまらうの二句下句
乃と固り乃事なるはる
をひる二句とりぬ火を
と固りせのこちこして入
らる後らり

も物

船借よの二句下
句乃也き句と

二句とせうらふ物を習ひ

紅葉

一葉のあまふ一とこ
ら乃橋はひ布下版次連

款よのこころり船借よの
あしあしと物をとくく
甲し紅葉の橋連よの二乃
布とわれと船借よの四
田ぬる一葉をたゆへし
お葉よの久乃字二句まや
あまてし松竹をわね乃赤
ぬぬあまのこつとく
あしあしと物の神名
常儀あまの久も二句ま
又紅葉あまの面よ一葉
葉よのあまのこつと
の葉の紅葉よ二句

又よりをこころとあへて一紙し
お香木の文は紅粉朱丹お七
煙のうしろ紙ともくろくこと
えりつ香鳥乃敷あつこと
いふし香鳥乃敷黄あつこと
てより鳥はぬきかしの紙乃敷
とふし一紙とあへての字はあへ
とも香竹香鳥の敷とのま
きうとも紙紙付合ふとも
しるしこのまうらうこと
連文紙紙よかまきとも
まも末代乃人洋梅金は
うらあき梅一紙よと紙よ
Pおととも紙よい香理あ
とも香竹の字通紙あ
て紙とこれとも紙あ
うらおとも紙のまうらうこと
まも人と紙あつことこの式目乃
まもとも香理とも人介
ハ香理おととも紙あつこと
紙あつこととも香理あつこと
あつことうらあき紙あつこと
よ紙あつこと紙あつこと紙あつこと
紙あつこと

お香木の文

紙し

お香木の文

紙し

お香木の文

紙し

そこのひのくさむしつーく
さうしあましきまをいささ
たう人物よいあうけいさ
しきつれくもト界中紅葉よ
まろへあうわうの句あうし
権抽り二句さうくさうま
さうふさうく句補ふよけ
とわく補もあうもの次依り補
とわく理もさうまをさうて
うまれく二句さうくぬま
候あうくわう

物乃の

とらふ襟と書いよ
物の字よ二句ま物と

あふまうてふさうまの字入
ハ物乃まよ三句まことまの字
この字ま物乃入一と
がまうま物乃入一と
うまらう

物乃

物とま物乃字
ままうこの字入

も二句ま物乃ま
うんまうまれく二句ま

物乃

物とま物乃ま
物乃ま物乃ま

く次新らうハ物乃ま
物乃まハ物乃ま
まれま物乃まハ物乃ま
ま

又字の海

二物乃
系め

乃物乃字の辨解
又字余不
由見和

文抄の事新武場打紙物に
取入る事又之文字余り
文字余を付はらる事
うらやにありはまる事
いふ又多し然し二句を
月乃又まあゆりといふ
あゆまてはれを悲あす
と云はるあまうくあゆ
やあゆかやくあゆの
くあゆかやくあゆの
ても打紙はあゆさる事
不若乃去之句をさる事
ゆし

鵲

秋し鵲乃草茎も秋連
は鵲一むれを流は二三人

鵲乃草茎も秋連
は鵲一むれを流は二三人

百歩

北居亦くあゆにあり
内裏乃る事大内大

さる事井の庭禁中多
内理乃惣右りハた
物をあゆさる事
事あゆさる事
名をさる事
名を連は二句乃物ハ
ありといふ人ハ百歩
ハ物といふ二句ハ
百乃字ハハ物といふ
事ハ百乃字ハ一性
ハ物といふ人ハ
續りといふ事ハ
乃字ハ二句ハ

百歳一過く百官とまへ
とれは物なきにゆきそ
まへ一初行よ百歳とわ
し二若れよいも人うら
百歳と百官乃亦の地
とあやういゆふ

求子

神祇少くも事なれ
と神祇より神系乃
名との祝われは梁齋秘物
の神系の神也子系也
ちんくひ源氏乃復ま
て冥白あ乃か人あ
にまてPをいあか
もわのいもあう
とあ

新武池よいふ
漢物と今ま
あはるくうら
てこもあ
一はくまへ
あはるを
うらとけい
る

藻乃花

藻乃花
もあ

森

森
たる森と
名あよ
三こい
林ると
いこ乃

安^わ樂^らも利^りの^のと^と又^まも^もの
これ^{これ}は^はあ^あひ^ひの^のあ^あの^のあ
あ^あん^んく^くあ^あら^らの^のあ^あの^のあ
字^じの^のあ^あん^んの^のあ^あの^のあ
付^つく^くも^もあ^あの^のあ^あの^のあ
もの^{もの}も^もあ^あの^のあ^あの^のあ
像^{さう}と^とあ^あの^のあ^あの^のあ
よ^よの^のあ^あの^のあ^あの^のあ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ

の^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

口へゆりて乃新同家

物の心とつり

五年第巻の
みさつるなり

物心ありて心あり

又字小

もの心ありて心あり
連字のよおぬ事あり

あつてももの心ありて可
きなり

もつり

連字の心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

百子鳥

いふ今集れともの
乃中ありて秘傳あり

連字の心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

八月廿三日

八月廿三日
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

もの心ありて心ありて
もの心ありて

の穠よあはれ居居をよあは
しと実をよこゆりあやの穠
実を實乃戸の居居よ二句
よへ一わき記あをせくと
実を實をよむの實より物
をせくと烟をせくとあはれ
あはれあはれ調をよと水と
とく新をせくとあはれ
とく年と一産よ二句と実を
あはれわきよまじ二句乃肉
實乃實よの面をよむと根を
と新よは後よよ二句と
実を實の世よよ付くとよ不
實を實とよんとあはれ後よ
ハ字よと成るよ山よあはれ
ハ字よと成るよ山よあはれ
ハ字よと成るよ山よあはれ

香山

大竺乃名あはれ山歌よ
なすれは難く句神よ
依くとあはれ丸あはれ山歌
成るよ一あはれ山歌よあは
あはれ山歌よあはれと云
事と実を實して山歌よあは
しとくあはれ

香分

あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ

せん

せん
せん
せん
せん
せん

とくせんちくせ回

家

珍虫 とくし 朽し 細猪よハ二句を

すこし

まの ちの ちの 詞し
とくし のよめわ
うよあはれをひしこるやま

とくし

連をありのあ
ひつし つし 物事

細猪よハ及よまを 朽し 二細猪

とあまのひのくはまわとくし

ひとくし又新美をま

役をま や へま ま してん者

涼し し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

為

一尾 び 死 し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

とくし し たらふ ふ せい せい の日

くまふし二句まきよまて人
桑のこころけしきも控の字
よ二句今も二句こ人備し

男と控のし世を控の時ハ

控をを始し連よるれ
遊りハ向えりわとまき
るれし世を控も世を
控も同神乃句るれし
控のし世を又あふま
ひ介子を控の家とま
室とまのあまのあ
も連懐まのし世を控
男と控の捨乃まの控
をまへし連懐まのし
二句まき

決戸 那乃名るれし世を

色こし決戸のし世
ハ非水也

硯水 水色こりあ

硯連よ一われし遊
ハ硯屏又まの硯海と
まきこまの硯乃
まきこまの硯乃
硯海とまの硯乃
まきこまの硯乃

硯系海 山勢一あ

硯系乃其同
硯系とまの硯乃
まきこ山勢まの硯乃

字麻乃字よりい字を去ぬへ
多終と終の字のむ又字
るれを同しぬを始とて
し麻乃字の字を去る人
又如麻乃の字に終麻と名
而乃終麻の字あるれは
又字のむおきても同し終
るれと終を始とて

炭

炭の字も
も名を炭竈

山穀に炭やとて山穀
あつて人編に炭乃字とし
連よとて是も炭又能よと
炭とてとらりてとて海炭
焼乃内り又とて炭を
と終よりいひ今一ひ連も

れをいへとてとて人視
乃とて眉とてとて名を
是もとて二句を去るれ
もとて終の字を去るれ
あつてとらりてとて付
もとていへ

巢

巢の字も
水もこれ巢の字を去る

乃巢の字の巢に終と名
のと終乃とてとて終の
字のむおきの字を去る
一坐りてとてとて

次

次乃の字も
乃とて人同

次

次乃の字も
乃とて人同

あし形式ふ不常田まら後と
あれし今に難し

ね撲 ねまきん ねしあまら後とらふ
字ふあまらるる七月乃下旬

と内裏あまらるる七月乃下旬
ふまらるる

とと海しき 丁二考んまら
句もねまらるる

句もねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる
三句もまらるる冷泉流冷泉
所まらるるまらるる海まらるる
まらるるまらるるまらるるまらるる
不持あまらるるこのあまらるる水也

巻 まき ねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる

乃親よまらるる隔まらるるまらるる
ぬまらるるまらるるまらるる
二句まらるる

ね乃の志 まき ねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる

ね乃の志 まき ねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる
ね乃の志 まき ねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる
ね乃の志 まき ねまらるる連よ二あれたし
能よの冷物まらるる後あまらるる

杖揚杖乃乃原皆同家杖
際より同家の地居りしも亦
も杖之乃内之同云松杖と
つひく杖きしやも亦本と
松と七句云あし杖をハ一
座ふ二句乃杖と云いつん
若云新式一しめ法なり
といふも杖乃句ハ連なる乃
四年小松しりハち家よ後
の字通直なるやう小松と
杖と飛りしもその方あり
と云ふなり

菅笠

菅笠よわす菅笠
菅笠同家連りハ
いふ所ありしも新式よ見
えす此笠ハ菅笠一若及之笠反

義兵將菅笠造りしの内
は一ひハよ及原氏或し
菅笠造りしも或及大鉢と
今一形を造りしと云ふ
るも亦も菅笠ありあり
又及とて菅笠原や法ん
るゝあるも此乃内之も
名原を移し菅笠よあり
も名原氏よありしと
菅笠とてそのハ菅笠と
物乃及一とてそのハ菅
原とてそのハ菅水とて
ありし

末乃松山

奥列乃名原
松山教し末乃
松とてそのハ山教し

下しすそこしうら 後(うら) 直
ましくすそこの 聖(よ) 二句(うら)
— 末(うら) 二句(うら) 二句(うら)

水(うら) 二句(うら)

例(うら) 二今(うら) 二今(うら) 二今(うら)
ま(うら) 二今(うら) 二今(うら) 二今(うら)

信(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

後(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

後(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)
乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら) 乃(うら)

とん
く
と
る
あ
し
し

たよ勝乃字
なれし海とい蓋乃字な
きことな海にきことな
人なりも癒能者なり
海乃字同勝乃字し去
年よりわも今年ハ癒能
乃字なりし耐の同や
の事なりと海乃字蓋の

末法母と花
し人志んか

後初まうり
なまうか

雑

酢
あ
す
又
乃
り
ま

しるし

慶安四曆初秋
三條通菱屋町
林甚右衛門板

雲英

林甚

